

学年	中学3年	教科	社会	科目	社会	単位数	4
教科書名	中学生の歴史（帝国書院） 中学生の公民（帝国書院）			副教材名	新中学問題集（教育開発出版株式会社）		
コース・クラス	中高一貫						

I. 目標

共通

1. レポート作成や課題学習、発表等を通じて、様々な資料を活用させ、社会的事象を多面的・多角的に思考・判断・表現する力を育成する。

歴史

1. 歴史的な事柄に対する関心を高め、歴史に対する愛情と国際社会に生きる日本人としての資質を養う。
2. 歴史的な基礎知識と我が国の歴史の大きな流れを確実に理解・習得させる。

公民

1. 現代の社会的事象に対する関心を高め、公正な判断力と自ら社会に関わろうとする姿勢を養う。
2. 民主主義や経済・国際的諸問題に関する基礎知識を確実に習得させる。

II. 授業のねらい

1. 教材やDVD・課題学習・校外学習・発表コンクールなどを通じて、社会に関する興味関心を持たせる。
2. 重要用語・人物などに関する反復学習を通じて、確実に基礎知識を身につけさせる。
3. 事前学習⇒校外授業⇒発表のサイクルで学習に取り組み、思考・判断・表現力を高めさせる。
4. セクションごとに問題演習の時間を設け、初見問題にも対応できる確かな学力を身につけさせる。

III. 授業の進め方

1. 1学期で地理・歴史を終わらせ、2・3学期に公民分野を学習させる。
2. 教科書の記述だけでなく、資料集や問題集を有効的に活用して発展的な内容を取り入れる。
3. アクティブラーニングを実施し、授業内容の理解を深めさせる。(電子黒板やクラッシーノートの利用)
4. 小テストを学期ごとに複数回実施し、基礎的な知識を身につけると同時に、勉強の習慣を身につけさせる。

IV. 学習上の留意点

1. 単発の記憶ではなく、いつ・誰が・どこで・何をして・どうなったかを関連付けて覚えること。
2. 板書の書き写しだけでなく、授業内の内容を細かくメモを取り、付随する知識も身につけること。
3. 配られた資料は、自己管理すること。

V. 定期試験

- 1学期 中間試験 : 歴史 : 第5章 (第1節・第2節・第3節)
- 1学期 期末試験 : 歴史 : 第5章 (第4節) 公民 : 第1部
- 2学期 中間試験 : 公民 : 第2部、第3部 (第1章 第1節・第2節)
- 2学期 期末試験 : 公民 : 第3部 (第1章 第3節・第4節、第2章)、第4部

VI. 評価の方法

- ・各学期の定期試験 ・小テスト、提出物、授業態度 ・課題学習の成果

Ⅶ. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	<p><歴史分野></p> <p>第5章 第1節 第一次世界大戦と民族独立の動き 第2節 高まるデモクラシーの意識 第3節 軍国主義と日本の行方 第4節 アジアと太平洋に広がる戦線</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●小テスト(複数回実施) ●提出物 ●授業への意欲・関心など 	<ul style="list-style-type: none"> ●2 国間の戦争ではなく、世界大戦が生じたようになった背景、それぞれの同盟の特徴を理解する。 ●第二次世界大戦の背景、戦況など、時代の流れを理解する。 ●戦後社会における、東西冷戦構造を理解し、現代の平和に向けた動きについて考える。
	5	<p><公民分野></p> <p>第1部 現代社会</p>		
	6	<p>第1章 現代社会と文化 第2章 現代社会をとらえる枠組み</p>		
二学期	9	<p><公民分野></p> <p>第2部 政治 第1章 日本国憲法 第1節 民主主義と日本国憲法 第2節 基本的人権の尊重 第3節 法の支配を支えるしくみ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●定期テスト ●小テスト(複数回実施) ●提出物 ●授業への意欲・関心など 	<ul style="list-style-type: none"> ●民主主義のあり方や日本国憲法の基本原理を理解する。 ●国会、内閣、裁判所、三権分立について、それぞれの働きと共に、なぜそのような仕組みが必要かを理解する。 ●民主政治とその成立過程について理解する。民主政治と国民の政治参加、政治の基本原理について理解する。 ●アメリカや中国の政治システムと比較できるようにする。 ●経済の概念を総合的にとらえ、自らに関わることとして理解する。 ●経済の学習を通して、働くことの意義を考える。 ●政治と経済は連動していることを理解する。 ●国際政治（環境、平和、開発など）における日本の立場を理解する。 ●日本・世界が抱えている差し迫った諸問題について、自らが関係することとして考える。 ●国際的な諸問題に対して、多面的に捉えた上で、「私たちに何ができるか」を考える。
	10	<p>第2章 民主政治 第1節 民主政治と私たち 第2節 国の政治のしくみ 第3節 地方政治と私たち</p>		
	11	<p>第3部 経済 第1章 市場経済 第1節 私たちの生活と経済 第2節 消費者と経済 第3節 企業と経済 第4節 これからの日本経済</p>		
12	<p>第2章 財政 第4部 国際 第1章 国際社会 第1節 紛争のない世界へ 第2節 貧困解消と環境保全 第2章 課題の探究</p>			
三学期	1	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習 「日本の良いところ」を伝える ・3年間の復習 		<ul style="list-style-type: none"> ●オーストラリア研修に向けて、日本とはどのような国かを、他国の人に発信できるようにまとめる。

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。